

がんばれ大阪の企業

なにわの 環境経営かわら版

大阪市環境経営推進協議会 第39号 平成29年7月
Osaka City Promotion Council of Environmental Management



平成29年度 通常総会・講演会・交流会

6月13日(火)午後2時から大阪市中央公会堂において、大阪市環境経営推進協議会の通常総会とそれに引き続いて講演会が行われました。本年度は設立10周年目にあたり、記念総会として、国の重要文化財である大阪市中央公会堂の大集会室を会場に盛大に開催することになりました。

●通常総会

冒頭に南会長と大阪市環境局の理事兼エネルギー政策室長の青野様よりご挨拶をいただいたあと、総合司会の宇田吉明氏より出席会員54名、書面表決会員97名、委任状提出会員44名、計195名の出席により、総会の有効成立が宣言されました。

総会は提出された議案書に基づき進められ、6つの議案が審議されました。はじめに、第1号議案「平成28年度事業報告」及び、第2号議案「平成28年度決算報告及び監査報告」について事務局からの説明と、会計監事のホテルアウィーナ大阪の尾崎様より監査報告が行われたあと、満場拍手で承認されました。続いて、第3号議案「役員の変更について」では、事務局より平成29年度は役員の変更の年になっており、24区の各理事様に留任をお願いした結果、今回、此花区、中央区、天王寺区、西淀川区、阿倍野区に新任の理事を、また会計監事に中央区の榎高島屋様を推薦したいとの説明があり、承認されました。

ここで一旦、総会が休会され、会長及び副会長を選任するため理事会が開催されました。ここで選任された方々は次の通りです。

会長：西成区 大和中央病院会長の南様。

副会長：東成区 有光工業株式会社常務取締役の金子様。

旭区 株式会社太洋工作所代表取締役会長の辻様。

都島区 千林建物株式会社大阪リバーサイドホテル代表取締役の樋口様。

淀川区 田岡化学工業株式会社レスポンシブル・ケア室部長の榎本様 (以上重任)

中央区 株式会社サクラクレパス副会長の西村様 (新任)。

続いて、第4号議案「平成29年度 事業計画(案)」及び、第5号議案「平成29年度収支予算」について事務局から説明がありました。平成29年度は当協議会の10周年に当たることから、さまざまな10周年にかかわる行事と15周年に向かっての積立金のスタートなど節目の年度の事業計画とその予算案が満場一致で承認されました。

最後に第6号議案の「大阪市事業者の環境負荷低減活動推進モデル事業への協力」について、このモデル事業がどのようなものであるかの内容を大阪市環境局環境施策部長の堀井様から説明がありました。当協議会会員企業の自主的な環境負荷低減活動の状況を大阪市に報告するよう協力を求めるもので、大阪市と当協議会が協定を締結して推進することが承認されました。以上ですべての議案が承認され、閉会となりました。



南会長挨拶



青野理事



会長・副会長



総合司会 宇田吉明氏

●講演会

「天気の人、天達さんが語る 地球の今」

気象予報士 天達武史氏

講演会は午後3時からフジテレビ「とくダネ！」で毎朝ご活躍中の気象予報士の天達武史氏をお迎えしました。お天気キャスターとして最近では極寒、酷暑の中でのレポートもあり気候変動を肌で感じているとのことでした。また、天気予報の精度のお話で、“的中率”“見逃し率”“空振り率”という言葉で面白く説明されました。ちなみに、雨が降るという的中率は88%だそうです。地球温暖化による温度上昇が続いた場合の2100年頃の天気予報も披露されました。それによると予想最高気温では日本全国軒並み40度を超え、雨が降らず農作物が枯れる被害、逆に大雨による川の氾濫、がけ崩れが各地で発生、台風情報では中心気圧895hPa、最大瞬間風速90メートル、百年後の予報ではありますが、すでに経験している事象もあり、温暖化対策の重要性を再認識することとなりました。



天達武史氏

そんな、温暖化対策は緩和策（温室効果ガスを減らす）と適応策（温暖化の悪影響に備える）の2本立てで実施することになること、「減らす」対策の具体例として森を増やす、自然エネルギーを使う、家庭での取り組み、「備える」対策は気象情報をこまめに確認し、大雨や暑さに備えましょうと気象予報士らしい呼びかけで洪水や土砂災害に備えるよう啓発されていました。講演内容は地球温暖化の現状と影響、将来の予測を気象予報士の目線でわかりやすくお話されました。

◆大阪市からの報告

「大阪市の国際環境協力について」

環境局環境施策部都市間協力担当課長 三原 真 氏

大阪市からの情報提供として、大阪市の国際環境協力についてお話をいただきました。地球温暖化による世界的な異常気象により、世界各地で災害が発生しています。地方自治体が海外展開に取り組む意義は、大阪市の技術による海外の水・環境問題への貢献、相手国地方政府との信頼関係を構築することによって、大阪・関西地域の経済の活性化、自治体の技術力の維持向上となることを説明されました。

また、大阪市の国際協力の事例として、ホーチミン市低炭素都市形成支援について報告されるとともに、更なる大阪企業の海外展開を推進するための Team OSAKA ネットワークの活動について説明されました。

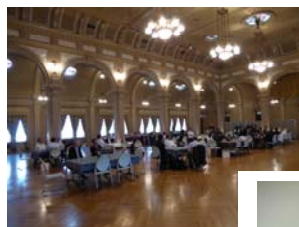


三原 真氏

◆交流会

総会と講演会の後、午後5時30分から中集会室で会員相互の情報交換と親睦会をかねて、交流会を催しました。中集会室の重要文化財の趣が重厚な雰囲気の中で、金子副会長の挨拶と乾杯の音頭で始まり、名刺の交換や情報交換に和やかなひとときを過ごしました。

恒例の余興として、大阪環境カウンセラー協会の飯田哲也氏に「環境配慮型屋台 Ver.2017」と題するたこ焼き屋台の環境経営を題材にした創作環境落語をしていただきました。最後に辻副会長の中締め挨拶で、閉会を迎えることが出来ました。



交流会風景



環境落語

平成 29 年度 第 1 回 理事会



理事会風景



理事会風景



理事会風景

本年度の第1回理事会が5月10日（水）午後3時からあべのルシアス12階会議室で行われました。南会長と大阪市環境施策部環境施策課の岡本課長の挨拶の後、6月開催予定の総会案内と、そのときに提出される予定の議案として「平成28年度事業報告と会計決算報告」「役員改選」「平成29年度事業活動(案)と予算(案)」「大阪市事業者の環境負荷低減活動推進モデル事業について」の説明があり、質疑応答の後、全議案が承認されました。

平成 29 年度 10 周年特別視察研修

大阪市環境経営推進協議会の設立10周年の記念行事の一つとして、愛知県豊田市のトヨタ自動車株式会社の工場見学を行いました。5月26日午前8時に大阪駅前集合のバス移動で、日帰りの強行日程でしたが、参加48名無事に世界のトヨタの組立工場とトヨタ会館を見学することができました。

まず、往路のバス車内では、「はるかなる走路」と題するトヨタ自動車誕生の実話DVDを鑑賞し、見学にあたっての予習をいたしました。豊田佐吉さんの自動織機時代にはじまり、新しい技術への強い意志を引き継いだ豊田喜一郎さんの自動車への挑戦に移り、試行錯誤から試作車の完成の喜び、会社としての成功に至るまでの苦労など、歴史の流れを変えたモノづくりの神髄を知ることが出来ました。

豊田市に着いて、名古屋名物の「ひつまぶし」昼食をいただき、本場の鰻を堪能することが出来ました。

さて、工場見学は、高岡工場の見学になり、ハリアー、オーリス、プリウスなどの生産ラインを真近に見ることが出来ました。

有名な倉庫を置かないジャストインタイムのかんばん方式、後ろの工程に不具合を渡さない「ひもスイッチ」や「あんどん」など、名前はいかにも古めかしいシステムですが、ものづくりの神髄を丁寧な説明を受けながら見学させていただきました。



展示風景



集合写真

また、各自月1件は提案するという「提案制度」などの成果を展示した組立治具の数々などには、大いに学ぶところがありました。

場所を移して、トヨタ会館では、ずらっと並んだ最新自動車モデルや、未来のクルマへの展望、事故を起こさないクルマへの挑戦などの展示を堪能することが出来ました。

帰路のバス内では、各自の感想を順番に発表して、たいへん有意義な視察研修であったことを話し合いました。

設立10周年記念の特別視察研修会として、十分に意義のある行事として無事終わることが出来ました。

平成 28 年度 第 4 回セミナー

『新エネルギー』

《太陽光・風力・バイオマス・バイオガス》

◆株式会社フジテックス

プラント事業部エネルギー部門部長

太田 一生氏



セミナー風景

このセミナーでは、再生可能エネルギーの話題として、1. フジテックス社とは 2. 太陽光発電とは 3. 風力発電とは 4. バイオマス発電とは (木質チップ) 5. バイオマス発電とは (メタンガス) についてわかりやすく講義をいただきました。まず、買い取り価格の推移については太陽光発電の売電価格が 2012 年から半額まで落ち込んでいること、太陽光発電以外の発電では売電価格は 2012 年と変わらないことを説明されました。原因は事業参入のハードルが高い発電方法は売電価格が有利であり、太陽光が一番簡単に事業参入できる発電方式であり、増加しすぎたために電力の需要供給バランスの面で抑制の必要から売電価格が減少したとの説明でした。また、太陽光と風力は発電原資が無料で安定的な発電が可能であり今後も有力な発電方式であり、太陽光は売電ではなく自己消費に使用すれば災害時の緊急エネルギーとしても利用できる話でした。



太田 一生氏

一方、風力発電は売電価格が有利であり太陽光発電と比較すると、同じイニシャルコスト、同じ売電金額の必要用地は小さくて済む。しかし、風力では風向きなどのシミュレーション、騒音問題があり設置場所が制限される。その他、バイオマス、地熱発電の説明もあり、再生可能エネルギーの創出にはさまざまな条件でその選択肢が検討され、事業として成り立つような検討が必要であることを説明されました。

◆大阪市よりの情報提供

「水素エネルギー社会の実現に向けて」

大阪市環境局エネルギー政策室 担当係長

和田 祐宏氏

水素エネルギーが、安全で温暖化対策の切り札であるとして、国も取り組みを進めております。燃料電池自動車の活用に始まり、水素発電の導入、水素サプライチェーンの確立等、資源エネルギー庁も中長期のロードマップを示しました。大阪府市においても水素利用の拡大を目指して H2Osaka ビジョン推進会議を立ち上げ、関西空港水素グリッドプロジェクトや府中央卸売市場での燃料電池導入などに取り組んでいることを説明されました。また FC バスの試乗会や FC 船の水都大阪での観光船構想など水素需要の創出に取り組んでいる推進会議への事業者の参加協力を求められました。



和田 祐宏氏

第 39 号 平成 29 年 7 月

発行者：大阪市環境経営推進協議会

業務委託先：NPO 法人 大阪環境カウンセラー協会

住 所：〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8F

大阪市環境経営推進協議会事務局

TEL:06-6543-7779 FAX:06-6543-0607

E-mail: info@osaka-e-keiei.org

http://www.osaka-e-keiei.org/

